

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200676
法人名	社会福祉法人 亀天会
事業所名	グループホーム 亀天福寿苑
所在地	愛媛県今治市高部字碁石山甲661番地1
自己評価作成日	平成 24 年 7 月 5 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 8 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

衛生面・・・ホール内消毒、掃除、手洗い、うがい、口腔ケアを徹底して行い、感染症を防ぎ気持ちよく過ごす。
 残存機能の維持・活用・・・本人のできることを見極め、日々の生活の中で活用できるよう支援する。
 レクの充実・・・本人のペースに合わせ、ゆっくりと穏やかに、又楽しく過ごせるよう十分ではないが、レクに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の希望や状態に合わせ、その人らしく日々を過ごせるよう心がけて支援している。事業所は近見山の裾野の小高い場所に立地し、大きな窓からはしなみの絶景を満喫することができる。各ユニットに看護職員を配置し、健康管理が行き届いている。母体法人は多くの福祉施設を運営しており、利用者の心身状況の変化に応じて他の事業所と連携し移行などができる。衛生的に暮らしてもらえるよう掃除には特に力を入れている。毎日ユニットごとに一部屋づつ布団とマットを干し、ベッドを動かして床の掃除を隅々まで行い、清潔を保っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム亀天福寿苑
(ユニット名)	1F たんぽぽ
記入者(管理者)	
氏名	山田古津枝
評価完了日	平成 24年 7月 5日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 福寿苑の理念を掲げ各階に掲示、又カードにして携帯、そのつど確認し実践に取り組んでいる。	
			(外部評価) 創設者の思いを基にして、職員で話し合って事業所の理念を作っている。ユニットごとに毎年目標を作り実践につなげている。職員は理念を書いたカードを作り、日々のケアの中で時々目にしながら共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の文化祭への作品の出展。地域の方と散歩時など顔を合わせればこちらのほうから挨拶をする。地方祭への見学参加、苑の夏祭りへの招待など交流するようにしている。	
			(外部評価) 近所に民家が少ないため、地域とのつきあいは難しい環境にあるが、年4回、手芸ボランティアの人の訪問があり財布や置物などを作ってもらっている。その際には、家族や地域の人にも声をかけ参加してもらい、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の民生委員、自治会長の運営推進会議出席で施設の現状、認知症の理解をしていただいている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 取り組み状況について写真もまじえて報告。出席者からの意見をくみ上げ、サービスの向上に取り組む努力はしている。	
			(外部評価) 職員や家族、自治会長、婦人会長、市の担当者などの参加がある。できるだけ多くの参加を得るように、日曜日に開催したり、地域の特産品である「いぎす豆腐」を食べてもらうなどの工夫をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市担当者の運営推進会議への出席をいただき、お互いの情報提供など協力関係を築く努力はしている。	
			(外部評価) 日頃から、生活保護の書類や手続きなど分からないことは何でも相談している。日曜日に開催する運営推進会議にも出席してもらい、連携を密に取って協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関施錠については1階は外に出ればすぐ車道で危険なため家族の了解を得て施錠。ベットについて柵は3本までとし、不穏な方の転落防止のためにも超低床ベットを使用。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアについての研修には積極的に参加し、月1回の職員会でもテーマにあげて正しく理解するよう努めている。日々の介護では、ベテラン職員が新任職員を指導している。安全に配慮して、時間帯によっては玄関を施錠している。2階と3階の出入口はデジタル式のオートロックになっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 不自然な傷やあざなど早期に発見し、それに至るまでの過程をみんなで話し合い周知徹底を図る。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会への参加、勉強会での報告で学ぶ機会を持つ。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時十分な説明を行い、疑問点にも納得いく説明をし理解を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 相談、要望、苦情を聞き（意見箱も玄関に設置）向上に向け取り組んでいる。	
			(外部評価) ほとんどの家族が月1回、通院介助のため事業所を訪問するので、その際に各ユニットのリーダーが意見や要望を聞くようにしている。心身状態に変化があった場合なども、家族に直接電話するなどして意向を確認している。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月職員会、ユニット会、リーダー会を開催し意見を求め反映させるようにしている。	
			(外部評価) 管理者は何でも話しやすい雰囲気があり、職員と良好な関係が築かれている。管理者の方から声かけし、意見を聞くように心がけている。職員会で駐車場の改善の提案があり、予算化されることになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格取得に向けての援助（休み等勤務の調整）	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 業務遂行表に基づき各自が自覚を持つ。又先輩からの丁寧なアドバイス。内部研修（職員会時テーマを決めて実技、認知症など）発表者ともども勉強していく。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 行事を通じての交流	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) コミュニケーションや家族の協力を十分にとり、傾聴に努め信頼関係ができるよう努力する。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 些細なことでも話をよく聞き相談にのり、信頼関係を築けるようにする。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 細かいところまでよく話を聞き何を必要としているか、お互いに話し合い希望に添えるよう努力する。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 寄り添う介護をめざしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 受診、行事など家族の協力を得、本人との良好な関係作りに努める。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知人の面会時など気兼ねなくお話しができ、ゆっくりとできる場所の提供 (外部評価) 通院介助や衣類の入れ替えなど、家族はよく訪問してくれる。馴染みの友達や知人が訪ねてくる利用者もいる。大切にしてきたこれまでの関係が継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員も交えて仲間作りに取り組んでいる。仲の良し悪しもあり配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院では電話や訪問で様子を伺う。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の意向を日々の会話の中からくみ取るように努力はしているがすべて添うのはなかなかむつかし、できる範囲で希望がかなえられるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者や家族から暮らし方について情報を得たり、意思表示の少ない利用者は、日常会話やちょっとしたしぐさや表情から読み取るように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人がいやがらなければ、話の中から時代の背景とともに過去の生活歴を把握しコミュニケーションにつなげる。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 過剰介護をさげ本人の有する能力の見極めをし手は出しすぎず目は話さずに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族の意向、本人の希望も聞き、チームで評価、見直しを行い実施可能な計画を作ることに努める。	
			(外部評価) 利用者や家族、関係者などで話し合い、意見を取り入れて介護計画を作成している。月1回のユニット会で話し合っ、見直しをしている。状態に変化があればその都度見直して、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 本人の発した言葉や行動を細かく記録、各スタッフ間で小さな気づきを話し合いながら実践へとつなげる。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 対応が困難になった利用者に対し家族と相談のうえ、同法人内や、他施設への移動がスムーズに行えるよう支援。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ボランティアの協力を得て小物作りや行事のお手伝いをしていただき、家族、利用者ともに楽しめるよう支援。年1回地域の清掃(草引き)に参加。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 各利用者それぞれのかかりつけ医を家族対応で受診し ている。相談を受ければ囑託医や適切な病院の紹介は している。	
			(外部評価) 本人や家族が希望するかかりつけ医の受診ができるよ う支援している。普段は家族が通院介助しているが、 できない場合は職員が同行している。協力医療機関と も連携しながら、適切な医療が受けられるよう支援し ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職員がおり日々の変化についてはすぐに報告、指 示を仰ぎ、夜間は連絡により指示またはかけつけてく れる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 定期的に訪問、連絡し情報交換、関係作りができてい る。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 医療が主体となった利用者にはグループホームででき る範囲を説明し本人家族にとって一番良い方法をえら んでもらったり、アドバイスをする。	
			(外部評価) 看取りの指針を作成しており、契約時に家族には説明 して理解してもらっている。重度化した場合は医療と の連携を希望する家族が多いため、看取りの実施には 至っていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 看護師による指導、マニュアルの作成により個々が自覚を持って日々仕事に取り組むよう意識づけている。 (吸引器の使用方法、誤嚥時の対応など)	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練実施、緊急連絡網の作成 車いすの人、歩行不安定者は非難しやすい1階に集めるよう利用者の階移動も徐々におこなっている。 (外部評価) 年2回災害訓練をしている。エレベーターが使えないことを考えて、車いすの利用者はなるべく1階のユニットにしている。職員は地元在住の者が多く、連絡網を実際に使った訓練も行なっている。	事業所が山の裾野にあるため近隣住民の協力も難しく、様々な災害を想定をした対策を検討することが望ましい。消防署などと連携した訓練が行われることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉遣い、特にちゃんづけで呼ぶのは慎みスタッフ間で注意しあいながら、人生の大先輩としての尊敬の念を持って接していくようにしている。 (外部評価) 一人ひとりの尊厳やプライバシーに配慮し、言葉遣いや声かけなど利用者の気持ちを大切に考えた対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 認知症にともない、理解できたりできなかったりだが気長く、ゆっくりと説明するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) できるだけ個々のペースに合わせるように努力はしているものの、そうもいかない時もある。気持ちにゆとりをもってかかわるようにしたい。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 家族の協力を得て季節の衣類の入れ替えをお願いし、定期的にクローゼットの整理をすることで季節に合った衣類が取り出せやすいようにしている。入浴時は、本人に服を選んでいただくようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 自力摂取できるよう声かけ、見守り、介助をし、嗜好を探りながらゆっくりと食事がおこなえる職員もともにお話をしながら食事をしている。	
			(外部評価) 母体法人で一括して調理され、半冷凍にして運ばれたものを温めて提供している。お汁や生野菜は事業所内で調理している。持てる力を活かして、調理の手伝いや片付けなどをしている利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量のチェックは毎回行っており嫌いなものがあるときは1口、2口又は時間をおいてすすめてみるが無理強いはいしない。お茶はお変わりできるようテーブルに急須を置いておく。入浴後の水分補給。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後必ず声かけ、見守り、介助で行うのが習慣となっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表に沿ってのトイレ声かけ、誘導、1人1人のパターンの把握、トイレに座る時間の調整。	
			(外部評価) ほとんどの利用者が紙パンツで、おむつの人はいない。一人ひとりの排泄パターンを把握して、失禁ゼロを目指し、自立に向けて支援している。持てる力を活かして自分で行ける人は、見守っている。プライバシーにも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日の体操、散歩、午前・午後の水分補給、食事度の汁物の提供、夜間の水分補給のため希望者には水筒、ペットボトルでのお茶の提供。給食部による献立の工夫。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴は本人の希望に合わせているが、昼間のみの入浴となっている。プライバシーの保護に努め1人ずつの入浴を行う。希望あればシャワー浴、特浴、一般浴とゆっくりと入浴してもらっている。	
			(外部評価) 基本的には2日に1回午後に入浴し、希望する方は毎日入浴できる。浴室は広く浴槽の両側にスペースがあり、職員は介助しやすい。1階には特浴の設備もある。入浴の苦手な人も多いが、声かけをする職員や時間を変えるなど工夫して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 居室にはいつでも入室、休憩ができるよう自由してもらっている。状況に応じ無理をしないよう配慮	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師を中心とし配薬時には再度名前の確認をし袋のまま、又は中身だけにし手渡し、いずれも服薬確認をする。全職員がすべて薬の把握にはいたっていないが努力はしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人の趣味や得意なことを生かし草花を採取して生けてもらったり、調理の下こしらえ（きゅうり、ねぎ等のカット、おすしを混ぜる、おにぎりを作る等）をしてもらっている。包丁は危ない、できないと決めつけてしまわず、見守りながらやってもらっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 苑外や苑庭散歩、月に1回程度ドライブ（希望地を聞くもなかなか希望地はないが）出かけている。	
			(外部評価) 男性利用者には近くのホームセンターが、女性利用者にはスーパーが好まれており、その日の希望に合わせて外出を支援している。梨狩りやぶどう狩り、お花見は家族にも参加してもらっている。外食や同法人の他事業所に出かけて交流することもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理は家族様が行っており必要時は家族様の了解を得て支出するようにしている。わずかなお金は持つておられる人もいるが、本人の安心のためあえて預かってはいない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 毎日決まった時間に電話がかかってくる利用者へは、電話口に椅子を用意したり、ただ単に取り次ぐだけでなく必ずスタッフが様子をお伝えするようにしている。手紙のやりとりは一方通行だがくる手紙を本人様が見せてくれるときは一緒に読んでいます。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節を取り入れた壁面や、乾湿計設置で換気に気を付け、節電をしつつも採光に配慮、掃除の徹底で清潔にきをつけている。</p> <p>(外部評価) 心地よく過ごせるよう清潔さを保つことに力を入れており、事業所全体が丁寧に清掃され年2回の害虫駆除もある。共用空間は季節感を出すように、ホールには職員と利用者で作った七夕飾りを飾るなど工夫している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファやテーブル席で自由に集えたり、生け花の材料提供で自由に生けて楽しんでもらいご自分のテーブルやホールに飾っている。一人になりたいときは自由に居室に入られる。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 孫や子供の、写真を飾ったり、希望者にはレクで作ったものを飾るようにしている。多くは持ち込めないが、机、椅子など使い慣れた物を持ち込んでいる人もいる。</p> <p>(外部評価) 備付のダンスとベッドがあり、お気に入りの家族写真や使い慣れた小物などを自由に持ち込んで、一人ひとり個性のある居心地の良い居室になっている。毎日、布団やマットが干されて、ベッドを動かして隅々まで掃除されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 定番のベット位置でなく、方向、高低をその人に合わせたり、障害物の除去に努め歩行不安定な人が安全に動けるような配慮を行う。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200676
法人名	社会福祉法人 亀天会
事業所名	グループホーム 亀天福寿苑
所在地	愛媛県今治市高部字碁石山甲661番地1
自己評価作成日	平成 24年 7月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24年 8月 6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>① 苑の立地条件が自然に恵まれた中にあること生かし、散歩や苑外での運動会、七夕、盆踊り、また、草花の採取等の活動に力を入れています。</p> <p>② 利用者様の情報を、一部の職員のみが把握のするのではなく、全職員が共有し、問題が生じた場合には、全体で解決に当たります。</p> <p>③ 毎日のバイタルチェック、心身の変化の有無等に注意を払い、利用者様の体調管理に努めます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者の希望や状態に合わせ、その人らしく日々を過ごせるよう心がけて支援している。事業所は近見山の裾野の小高い場所に立地し、大きな窓からはしなみの絶景を満喫することができる。各ユニットに看護職員を配置し、健康管理が行き届いている。母体法人は多くの福祉施設を運営しており、利用者の心身状況の変化に応じて他の事業所と連携し移行などができる。衛生的に暮らしてもらえるよう掃除には特に力を入れている。毎日ユニットごとに部屋つつ布団とマットを干し、ベッドを動かして床の掃除を隅々まで行い、清潔を保っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 職員で話し合い苑独自の理念を掲げ、又ユニットごとの理念を持ち実践に取り組んでいる。	
			(外部評価) 創設者の思いを基にして、職員で話し合っ事業所の理念を作っている。ユニットごとに毎年目標を作り実践につなげている。職員は理念を書いたカードを作り、日々のケアの中で時々目にしながら共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の祭りや、清掃活動などの行事には、利用者とともに楽しみながら、参加している。 又 苑の行事で、運動会・クリスマス会等に地域の方々にも参加して頂いている。	
			(外部評価) 近所に民家が少ないため、地域とのつきあいは難しい環境にあるが、年4回、手芸ボランティアの人の訪問があり財布や置物などを作ってもらっている。その際には、家族や地域の人にも声をかけ参加してもらい、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 介護や介護保険の手続きなど、何でも気楽に相談して頂けるよう、運営推進会議などを、通じて話し合っているが、現状は、なかなか相談には見えてはいないのが実情である。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 苑の現状や、行事の報告又は、福祉に関する情報を提供しながら、それらに関する質問や意見を聞きながら、サービス向上へ反映されるよう努めている。	
			(外部評価) 職員や家族、自治会長、婦人会長、市の担当者などの参加がある。できるだけ多くの参加を得るように、日曜日に開催したり、地域の特産品である「いぎす豆腐」を食べてもらうなどの工夫をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に出席して頂いたときに相談や情報交換を市職員に行っている。又必要に応じて市役所・地域包括支援センターにも足を運んでいる。	
			(外部評価) 日頃から、生活保護の書類や手続きなど分からないことは何でも相談している。日曜日に開催する運営推進会議にも出席してもらい、連携を密に取って協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員一人一人に、身体拘束の禁止を徹底している。しかし安全面を考慮して、玄関の施錠は、夜間のみ危険性がある為、行っている。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアについての研修には積極的に参加し、月1回の職員会でもテーマにあげて正しく理解するよう努めている。日々の介護では、ベテラン職員が新任職員を指導している。安全に配慮して、時間帯によっては玄関を施錠している。2階と3階の出入口はデジタル式のオートロックになっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員は、常に、注意を払い又介護の現場においてもその様な行為になっていないかを、常に考え、又機会のある毎に周知徹底を、図っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修の機会があるごとに、出来る限り参加し職員一人一人が、この制度に関する理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 特に入所時に際して、十分な説明をする時間を作り不安や疑問点が無いか、確認しながら契約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見や要望があれば、面会時などで随時受けている事を案内し、意見箱等の活用を依頼しており、意見・要望あれば実施出来るよう努力し、行事などで参加している外部者にも説明するようにしている。	
			(外部評価) ほとんどの家族が月1回、通院介助のため事業所を訪問するので、その際に各ユニットのリーダーが意見や要望を聞くようにしている。心身状態に変化があった場合なども、家族に直接電話するなどして意向を確認している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会で話し合いの機会を、随時持つようにしている。それ以外でも意見・提案がある時には、苑長等交えて話し合いの機会を持つ様になっている。 (外部評価) 管理者は何でも話しやすい雰囲気があり、職員と良好な関係が築かれている。管理者の方から声かけし、意見を聞くように心がけている。職員会で駐車場の改善の提案があり、予算化されることになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 業務遂行表を作成し、各自業務の向上を目指している。心配・悩みなどある時は、相談できる環境作りを行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修に出来る限り、又順次参加出来るような、勤務体制が採れるよう努めている。職員会などでにおいて、勉強会を実施して、職員の質の向上を図っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 近隣の施設と行事等を通じて、互いに行き来し、あらゆることにおいて、意見交換などをし、互いに切磋琢磨し合っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面談での、情報を熟知し、本人様の要望等を受け止め、入所初期に、本人様の安心を、少しでも確保できるように、努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者様・家族様の希望・要望等、聞き、受け止め施設の説明も同時に行い、安心して生活して頂けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 苑に慣れて頂けるまでは、見守り・寄り添い、今何が出来るのか、何を必要としているのか、本人や家族様にとって、より良い支援になる様又見極めるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員の押しつけではなく、利用者様の望まれる事を尊重し、職員や利用者様と、互いに助け合う関係づくりに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時外出するなどして、本人との時間を大切にして頂いている。又家族様に対しても、外出の機会を出来る限り持って頂くようお願いしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族様、利用者様との会話の中で、何を大切にしていたか聞いたりしながら、又馴染みの人、場所などを知り、それらの関係が、維持出来る様支援している。 (外部評価) 通院介助や衣類の入れ替えなど、家族はよく訪問してくれる。馴染みの友達や知人が訪ねてくる利用者もいる。大切にしてきたこれまでの関係が継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ホールにて過ごされている時の利用者同士の会話・レクリエーション等の余暇活動を行う中で利用者同士の関わりを大切にし、お互いが支えあえるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 長期入院での退所の場合は、家族様へ症状を尋ねたり、病院に面会など行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) すべての意向に添うのは難しいが出来る限り利用者様の行動や、会話の中から、本人様の意向を探し、把握し本人様本位の苑での日常生活が、送れる様努め、支援している。	
			(外部評価) 利用者や家族から暮らし方について情報を得たり、意思表示の少ない利用者は、日常会話やちょっとしたしぐさや表情から読み取るように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族様から、本人様のこれまでの生活ぶりなど、情報を聞かせていただいたり、病院・老健より頂く、サマリを参考に、細かく把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日のバイタルチェック・心身の細かな変化を見逃す事なく看護師含め職員全員で、現状把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 職員間でカンファレンスを行い、又面会時に家族様に意見を聞くなどし、又主治医との意見を取り入れながら、各意見が反映されるような、介護計画を作成している。、	
			(外部評価) 利用者や家族、関係者などで話し合い、意見を取り入れて介護計画を作成している。月1回のユニット会で話し合っ、見直しをしている。状態に変化があればその都度見直して、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケアプランを職員全員が把握、心得」、実践できるように努めている。毎日のケアチェックを把握し、1ヶ月ごとに経過記録を行い評価することによって検討を行い 見直しを行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 法人事業所との交流を図り、柔軟な支援やサービスが行えるように取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 年1回の、地域の清掃（草ひき）等参加し、近隣の人達との触れあったり、運営推進会議でボランティアを募っている。又安全面から消防に依頼し、救命練習を職員に指導して頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医療機関を有しているが、本人・家族様に病院の 選択は任せている。必要時には、主治医に連絡、相談 し指示を仰いでいる。夜間におけるの緊急時には、救 急当番医を受診するようにしている。	
			(外部評価) 本人や家族が希望するかかりつけ医の受診ができるよ う支援している。普段は家族が通院介助しているが、 できない場合は職員が同行している。協力医療機関と も連携しながら、適切な医療が受けられるよう支援し ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職員が各フロアーを巡回し、利用者の健康管理を 行い、日々のバイタル・食事量のチェックなど行って いる 又看護職員は看護日誌に記載の事項を絶えず把 握する よう努めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者様が入院した際は、担当医師や看護師に、対し て紹介状や連絡等のサマリーを送付し、又これに対し ての 返事を頂くように連携を密にしている。又 その状態を 尋ねたりしながら、情報交換を行って いる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 利用契約時に重度化した場合の説明を行っている。 重度化する以前より、検診時などに担当医師より家族 様が本人様の状態の説明を受けているため、利用者 様・家族様の意向を尊重し、事業所で出来る事話し合 いながら支援している。	
			(外部評価) 看取りの指針を作成しており、契約時に家族には説明 して理解してもらっている。重度化した場合は医療と の連携を希望する家族が多いため、看取りの実施には 至っていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 各フロアー巡回時などに看護師から、指導を受け、応急 手当など、実践力を身に付けるように努力している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 利用者様が安全に避難出来るよう、定期的（年2回）に訓練を行い、訓練終了後には、評価を受けるなどして、職員全員が災害についての訓練が、身に付くように努力している。又近隣の皆様には、行事などで参加して頂いた時などで、協力依頼など行っている。 (外部評価) 年2回災害訓練をしている。エレベーターが使えないことを考えて、車いすの利用者はなるべく1階のユニットにしている。職員は地元在住の者が多く、連絡網を実際に使った訓練も行なっている。	事業所が山の裾野にあるため近隣住民の協力も難しく、様々な災害を想定をした対策を検討することが望ましい。消防署などと連携した訓練が行われることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 声掛けする場合に、言葉使いに気を配るなどしている。 排泄やいろいろな失敗した場合にも、他の利用者に気づかれないよう配慮したり、本人様の誇りやプライバシーも傷つかないように配慮している。 (外部評価) 一人ひとりの尊厳やプライバシーに配慮し、言葉遣いや声かけなど利用者の気持ちを大切に考えた対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 認知症の進行に伴い理解が困難な利用者様に対しても、可能な限り、希望を叶える様に尊重しているが、希望どおりに出来ない場合は、本人様と、職員で話し合いながら、自己決定できるようにしている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の生活の中で、決め事はあるが、押しつけではなく、一人ひとりの時間のペースを大切にし、本人様の希望する一日を過ごせるよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 夜の更衣時に、明日は、どの洋服にする？など話しながら、準備したり、希望によって、月1回の訪問理容を利用している	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) サラダの野菜を切ったり、洗ったり、楽しみながら職員と一緒に準備している。盛り付け・配膳は難しい為、行っていないが、食器を拭くなどの後片づけなどは、出来る限り行って頂くよう努めている。	
			(外部評価) 母体法人で一括して調理され、半冷凍にして運ばれたものを温めて提供している。お汁や生野菜は事業所内で調理している。持てる力を活かして、調理の手伝いや片付けなどを行っている利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食、食事量の確認を行い記録している。希望があれば 本人の水筒や急須に、お茶など入れて、自由に飲んで頂けるようにしている。栄養管理は栄養士管理であるものの給食会議などにより摂取状態を栄養士に報告し献立に 反映している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 声掛け・誘導を行い、必ず毎食後、口腔ケアを行っている。又義歯の場合も同様に行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄チェック表を基にし、トイレ誘導や声を掛けを行い、それぞれの利用者様に合った排泄のリズムに合わせる様努力し、オムツ使用量の減少や、トイレでの自立排泄できるよう支援している。	
			(外部評価) ほとんどの利用者が紙パンツで、おむつの人はいない。一人ひとりの排泄パターンを把握して、失禁ゼロを目指し、自立に向けて支援している。持てる力を活かして自分で行ける人は、見守っている。プライバシーにも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 体操や体を動かすレクリエーション等の適宜な運動と水分補給に心かけたり、個々に応じて腹部マッサージを行ったりしながら、便秘の予防を行っている。医師の指示による、定期的な頓用での便秘薬を服用している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴は1日おきに利用して頂いている。入浴するか・しないかは、本人様意思を尊重している。入浴時間は出来限り本人様の希望どりにしている。入浴時は必ず職員が目を見守るよう事故防止に努めている。	
			(外部評価) 基本的には2日に1回午後に入浴し、希望する方は毎日入浴できる。浴室は広く浴槽の両側にスペースがあり、職員は介助しやすい。1階には特浴の設備もある。入浴の苦手な人も多いが、声かけをする職員や時間を変えるなど工夫して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 家族様より本人様の生活習慣の状況等聞く等し、又それにより入所前の生活習慣のリズムを把握するように努め、休息や安眠の参考にし、希望があれば、いつでも、居室で休息して頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬管理は、看護師によって行っているが、職員全員で薬の目的や副作用、用量については、理解するように努めている。又服薬に不安のある利用者様に対しては職員の見守りによる服薬の確認をしている。又下剤服薬用以後の反応便の確認等も行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) レクリエーションや行事などは、年間・月決めで、レク担当職員により計画を立案・実施している。又最近では 苑の方針により、日々のレクに力を入れており、各フロア④勤者による、多種多様なレクを、実施し、利用者様の気分転換出来るよう努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 幸い苑の周辺が自然に囲まれた土地柄ゆえに、自然を満喫しながらの散歩を日常的に実施している、又家族様 との連絡を密にし時間の許す限り外出のお願いをしている。又苑においても、数か月に1度郊外レストランでの 外食にお連れし、外での食事する楽しみの機会を多く持つよう努めている。	
			(外部評価) 男性利用者には近くのホームセンターが、女性利用者にはスーパーが好まれており、その日の希望に合わせて外出を支援している。梨狩りやぶどう狩り、お花見は家族にも参加してもらっている。外食や同法人の他事業所に出かけて交流することもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族様と一緒に、外出する時や、苑での行事で、出かけた時など、買い物が出来るように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人様より依頼があれば必要に応じて、電話や手紙など、出来るように支援している。利用者様が自ら電話を かける事が出来ないが場合、ほとんどであるが、出来るだけ、電話をかけたり、かかっていたら、受話器を もって、自分で話が出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 苑の方針により、あらゆる場所の掃除の徹底又整理整頓を心かけ実行されている。共用空間の整理整頓・清潔は実行されている。又季節ごとに、共用空間の飾りを変えたり、花を生けたりする工夫を行っている。苑の立地的な条件により、季節感を満喫できているものと思われる。</p> <p>(外部評価) 心地よく過ごせるよう清潔さを保つことに力を入れており、事業所全体が丁寧に清掃され年2回の害虫駆除もある。共用空間は季節感を出すように、ホールには職員と利用者で作った七夕飾りを飾るなど工夫している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファ、テーブルなどの配置で、利用者同士で、思い思いに、過ごせるよう場所の工夫をしている。又居室が確保されているため、一人になりたいプライバシーが保たれている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家族様には、以前より使い慣れている家具や、置き物など持参して頂けるよう説明し、持参して頂き、居室に飾るなどし本人様が居心地良く生活できるようにしている。又居室に設置されたクローゼットを利用することにより衣類の整理ができ、又職員が必要な時に整理の手伝いをし、居室を居心地の良いものにして</p> <p>(外部評価) 備付のタンスとベッドがあり、お気に入りの家族写真や使い慣れた小物などを自由に持ち込んで、一人ひとり個性のある居心地の良い居室になっている。毎日、布団やマットが干されて、ベッドを動かして隅々まで掃除されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 自分で出来る、居室の片づけ、掃除などは、職員と一緒に、自分でするなど、出来る範囲で、自立した生活が送れるよう工夫すし、絶えず声掛けをし、事故の無い様に気配りしている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200676
法人名	社会福祉法人 亀天会
事業所名	グループホーム 亀天福寿苑
所在地	愛媛県今治市高部字碁石山甲661番地1
自己評価作成日	平成 24 年 7 月 5 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 8 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1: 体調管理・健康管理(手洗い・うがい)・リスク管理を徹底しています。 2: 家族の共同的関わりも強めることに取り組んでいます。 3: 地域コミュニティにおいては日頃よりネットワークを維持し協働作業できるよう企画、形成・維持に取り組んでいます。 又、ボランティアと互酬的に「お互い様」的な立場で関われるよう取り組んでいます。 4: 職員就労定着・スキルアップできるよう内・外研修や各ユニットでは、職員が気づき考えて問題点を改善していける方向で取り組んでいます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者の希望や状態に合わせ、その人らしく日々を過ごせるよう心がけて支援している。事業所は近見山の裾野の小高い場所に立地し、大きな窓からはしなみの絶景を満喫することができる。各ユニットに看護職員を配置し、健康管理が行き届いている。母体法人は多くの福祉施設を運営しており、利用者の心身状況の変化に応じて他の事業所と連携し移行などができる。衛生的に暮らしてもらえるよう掃除には特に力を入れている。毎日ユニットごとに部屋つつ布団とマットを干し、ベッドを動かして床の掃除を隅々まで行い、清潔を保っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム亀天福寿苑

(ユニット名) 3F ひまわり

記入者(管理者)

氏名 山田古津枝

評価完了日 平成 24年 7月 5日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員各々が目標を把握し易いよう、運営方針を身近に、パスポートサイズで携帯し、取り組んでいけるように実施、実行しています。</p> <p>(外部評価) 創設者の思いを基にして、職員で話し合って事業所の理念を作っている。ユニットごとに毎年目標を作り実践につなげている。職員は理念を書いたカードを作り、日々のケアの中で時々目にしながら共有している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 利用者・家族と一緒に梨狩りに出かけたり、年間を通しての創作活動等での作品の出品を公民館活動行事に参加しています。</p> <p>(外部評価) 近所に民家が少ないため、地域とのつきあいは難しい環境にあるが、年4回、手芸ボランティアの人の訪問があり財布や置物などを作ってもらっている。その際には、家族や地域の人にも声をかけ参加してもらい、交流を図っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 近所の道路の清掃作業を行ったり、夕涼み会では近所の子供さんや家族も招き、花火やゲームなど一緒に過ごして理解を広げています。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では提案発言して頂けるよう取り組んで いますが、現状は行事報告やユニットでの目標や取り 組みを報告しながら、協力依頼し内容がより充実でき るよう取り組んでいるところです。	
			(外部評価) 職員や家族、自治会長、婦人会長、市の担当者などの 参加がある。できるだけ多くの参加を得るように、日 曜日に開催したり、地域の特産品である「いぎす豆 腐」を食べてもらうなどの工夫をしている。	サービス向上につながる意見をもらえるよう、地域 の方の参加を一層増やす工夫に期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に出席して頂くなどし、困難事例等生 じた場合の対応の方法など連携しケア向上にとりくんで いる。	
			(外部評価) 日頃から、生活保護の書類や手続きなど分からないこ とは何でも相談している。日曜日に開催する運営推進 会議にも出席してもらい、連携を密に取って協力関係 を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ユニット出入り口の施錠は行っています。ご家族には 了解頂いております。安全と抑圧のバランスについ ては、今後の支援の大きな課題だと思っています。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアについての研修には積極的に参 加し、月1回の職員会でもテーマにあげて正しく理解 するよう努めている。日々の介護では、ベテラン職員 が新任職員を指導している。安全に配慮して、時間帯 によっては玄関を施錠している。2階と3階の出入口 はデジタル式のオートロックになっている。	利用者の安全確保は重要ではあるが、職員で話し合っ て、施錠を常態化させない取り組みに期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 入浴や着替え時、いつもと違う体の動きや打撲痕、掻き傷後など目に止めた職員は、申し送りやユニット内で、報告し職員間で共有しています。皮膚剥離し易い方は、介助時の方法など、職員間やご家族とも話し合っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 生活自立支援法の適応者に関しては市、生活支援課担当のCWや身元引受人の方、HPディのSWなどと連携し、必要なサービス利用が可能になるよう支援していました。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約内容（食事・おやつ・部屋代など料金に変更になった場合や法改正など）契約書内容に変更があった場合、十分な説明を行い、同意を得ています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議のおりには毎回ご意見を伺う時間をとっています。玄関にも以前より意見箱設置していますが、ご意見は少なく、推進会議後や家族交流後やユニット職員との交流も企画しながら意見交換できるよう取り組んでいます。 (外部評価) ほとんどの家族が月1回、通院介助のため事業所を訪問するので、その際に各ユニットのリーダーが意見や要望を聞くようにしている。心身状態に変化があった場合なども、家族に直接電話するなどして意向を確認している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会議で意見を聞いたり、リーダー会議を設け、提案意見などを聞く体制にある。 (外部評価) 管理者は何でも話しやすい雰囲気があり、職員と良好な関係が築かれている。管理者の方から声かけし、意見を聞くように心がけている。職員会で駐車場の改善の提案があり、予算化されることになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 業務遂行表での業務の向上を行っている。各ユニットリーダーが、職員の悩み相談出来る体制を作っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員公募の張り紙には、応募資格など意欲的に有資格者に取り組みるよう提示しており、OFT・FJTなど参加者は勉強会で研修内容を発表し職員の意欲や技能向上に取り組んでいます。パソコン教室も希望者に行っています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) ケアハウス・GH・特老施設を訪問し介護教室や交流をもっています。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所委員会資料・事前面接の機会日程調節後訪問し、知り得た関係作りで問いかけたり、話しかけられるよう心掛けています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所申込み時の聞き取りや入所検討委員会での資料・必要経費や費用などの説明や苑見学もして頂き都度の質問に応えさせて頂いています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談の段階で、在宅が可能な方であれば通所系の利用も説明していますが、行動され交通事情の理解が乏しい方のケア協力が得られにくい方には保護入所も必要ではないかと思えます。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) できることとできないことの見極めや気持ちよく協力して頂ける関係作りは常に課題だと考えています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 衣替えの折や必要物品届け・病院受診時にはご家族に依頼しております。結果的には家族の役目として関わって頂いており今は来苑のない方は居られないと思えます。職員も家族とは顔なじみの関係も構築されつつあります。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 苑行事とあわせ、子供さん以外にも孫さんやひ孫さんも連れて来てくれるようになっています。数名の方は行きつけの散髪屋や美容院へご家族が同行してくれ協力を頂いています。 (外部評価) 通院介助や衣類の入れ替えなど、家族はよく訪問してくれる。馴染みの友達や知人が訪ねてくる利用者もいる。大切にしてきたこれまでの関係が継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者間でトラブルになることも大いにありますが、共有スペースで洗濯物など職員がたたんでいると、数名の方は話しながら手を出して名前を確認してくれたり、食事の折には、同じテーブルの方が揃うまで待つて頂いたり一緒に摂られます。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 転入所施設、HP入院治療の際には要約サマリーや電話などでも必要な情報提供しています。施設退所後の相談ケースは稀ですが、職員は他施設へ移られた後も面会させてもらったりして関係を続けている方もいます。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 職員の気付きは大切にしています。取り組んだ結果や過程は職員間で日常的に話しあっています。	
			(外部評価) 利用者や家族から暮らし方について情報を得たり、意思表示の少ない利用者は、日常会話やちょっとしたしぐさや表情から読み取るように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 職歴や生活歴など本人様の話しの中から出た断片的な事はご家族にも伝えて、いつ頃の話か？しっかりと捉え暮らし方の把握や考え方など知る機会を多くもてるよう取り組んでいます。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日常的な行為やその折に触れて行動されることへの観察や思いなど話しの内容や話し方などから関心のある事柄など、考えや希望をくみ取れるよう努めています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族の要望も聞き取りながら、見直し期間にとらわれず、カンファで話し合いアセスメントでケア計画を見直していくようスタッフ間で意見を出し合っています。	
			(外部評価) 利用者や家族、関係者などで話し合い、意見を取り入れて介護計画を作成している。月1回のユニット会で話し合っ、見直しをしている。状態に変化があればその都度見直して、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケアプラン評価に実施状況や達成度を評価しながら、新たな課題などアセスメントし、サービス内容修正や目標達成に向け取り組んでいます。プラン見直し時は職員会議で方向性を話し合っています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 血縁者や身元引受人が遠方の場合は行き来のしやすい施設へ転入できるよう話しあっています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域ボランティアのコーラス会や近所の方の協力を得て、年に数回小物作りなどの活動に利用者・家族と一緒に創作活動を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 受診は家族対応が基本ですが、セカンドオピニオンの 要望や必要があればご家族に相談し受診依頼していま す。	
			(外部評価) 本人や家族が希望するかかりつけ医の受診ができるよ う支援している。普段は家族が通院介助しているが、 できない場合は職員が同行している。協力医療機関と も連携しながら、適切な医療が受けられるよう支援し ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日々のバイタルは暮らしの状況表やPC入力で全職員 は把握することができ、要観察者も確認できるような システム導入しています。申し送りやスタッフ間で声 も掛け合いますし、職員会議の折には今後の方向性や 治療状況などの経過を共有しています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院計画や治療計画は家族を窓口で連絡して頂いてい ますので、退院予定日には受け入れができるよう詳細 に伺っています。退院後の受診のおりには苑での様子 や経過をご家族を通して連絡しています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所契約のおり看取りの指針に沿ってステージを説明 し同意を得ています。(苑では看取りは行っていません)	
			(外部評価) 看取りの指針を作成しており、契約時に家族には説明 して理解してもらっている。重度化した場合は医療と の連携を希望する家族が多いため、看取りの実施には 至っていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 安全な良肢位を確保することや助けを求める訓練、バイタル測定でいつもと何か違う感性はもって対応しています。初期対応は全職員身につけ取り組んでいます。研修参加者は発表の機会もとっています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災については、火災・避難訓練を定期的に行い、利用者検索には職員連絡網を活用し地域に住む職員の呼び出しを優先に行っています。 (外部評価) 年2回災害訓練をしている。エレベーターが使えないことを考えて、車いすの利用者はなるべく1階のユニットにしている。職員は地元在住の者が多く、連絡網を実際に使った訓練も行なっている。	事業所が山の裾野にあるため近隣住民の協力も難しく、様々な災害を想定をした対策を検討することが望ましい。消防署などと連携した訓練が行われることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 馴れ合い的な言葉を反省できるよう、職員通路には標語を掲げて各々が顧みれるよう掲げて取り組んでいます。プライバシーの確保については（入浴や排泄介助のおり）課題は多く残されていると感じています。 (外部評価) 一人ひとりの尊厳やプライバシーに配慮し、言葉遣いや声かけなど利用者の気持ちを大切に考えた対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 希望については、居室やホールでのんびり過ごされている折に何気ない話の中から、例「ことこちゃんのようなひよこから育てて卵を産んでくれたら一人では食べきれんから物をくれる人にあげたい喜んでくれるよ」との思いは受け止めてその方向への支援は課題です。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日の担当が事前に予定を記入し当日レクを行っていますが時々で散歩に出かけたり希望に添える関わりも行えるよう関わっていますが、スケジュールを基本としています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 思い入れのある洋服や好みの服は外出支援の折、着衣して頂くよう配慮していますが、日常的には洗濯し易いものを家族に届けて頂くようにしています。購入衣類に関しては家族の関わりも持って頂いています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 配食サービスで提供しています。食事は職員も弁当持参で一緒に頂き、残食具合や盛り付けの都合など要望や意見も毎月出し合い、改善して頂いています。メニューも豊富になりつつあります。おかわりが出来ないことが難点です。	
			(外部評価) 母体法人で一括して調理され、半冷凍にして運ばれたものを温めて提供している。お汁や生野菜は事業所内で調理している。持てる力を活かして、調理の手伝いや片付けなどをしている利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日の食事摂取量確認を行い記録している。希望があれば、水筒や急須にお茶など入れて、お渡ししている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 手洗いを含め、毎食後の歯磨きや洗口液での嗽いは定着しております。合わせて口腔体操も取り入れ衛生習慣や誤嚥予防にも継続して取り組んでいます。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中はトイレ内での排泄を目標に、紙パンツやパットの使用について必要枚数を毎日準備し使用枚数の削減や昼間は下着で過ごせるよう取り組んでいます。	
			(外部評価) ほとんどの利用者が紙パンツで、おむつの人はいない。一人ひとりの排泄パターンを把握して、失禁ゼロを目指し、自立に向けて支援している。持てる力を活かして自分で行ける人は、見守っている。プライバシーにも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 常習便秘に関しては、緩下剤服用で医療と連携し、コントロールしています。日常的には浮腫の状況など踏まえ、分割飲水や体操。時間をかけて便座に座って頂くなど体を動かすことで改善できるよう取り組んでいます。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴は事故予防の観点から日中に行っています。バイタルで不安な方は検討し入浴時間ものぼせない程度で40分程度までとしています。お一人で入ることが主ですが、時には2人で話しながら湯につかれます。	
			(外部評価) 基本的には2日に1回午後に入浴し、希望する方は毎日入浴できる。浴室は広く浴槽の両側にスペースがあり、職員は介助しやすい。1階には特浴の設備もある。入浴の苦手な人も多いが、声かけをする職員や時間を変えるなど工夫して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 不眠傾向の折には、職員間で共有し、日中食後や浴後休息して頂く事もあります。室内温度は管理し安眠できやすい環境は提供しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 排便コントロール状況や興奮時の状況など詳細な情報はご家族にも伝え、医療連携し内服調整をして頂いています。初回服薬後の苑での様子はP C内や生活記録にも記載し職員間で把握しやすいように取り組んでいます。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 外出や外泊時家族の中ギクシャクしないよう過ごせる取り組み中です。苑では禁煙運動の取り組みで嗜好品の提供は特別に行っておりません。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人一人の行きたい場所への支援は行っておりません。が近所へは、散歩や日向ぼっこなどは随時行っています。	
			(外部評価) 男性利用者には近くのホームセンターが、女性利用者にはスーパーが好まれており、その日の希望に合わせて外出を支援している。梨狩りやぶどう狩り、お花見は家族にも参加してもらっている。外食や同法人の他事業所に出かけて交流することもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外食外出も行いますが、支払いについては代行し金銭所持は行っておりません。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 誕生日には、ご家族の来苑もお願いしたり、メッセージカードやお祝いの手紙を事前にお願ひしています。帰宅要求には、TELでご家族の声を聴いてもらうこともありますし、要件後電話口に出て話しもしてもらっています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ホール（共有スペース）では壁面に季節感の飾り付けを行っています。今はアジサイやあやめを利用者様と一緒に作り梅雨入りの季節を演出しています。</p> <p>(外部評価) 心地よく過ごせるよう清潔さを保つことに力を入れており、事業所全体が丁寧に清掃され年2回の害虫駆除もある。共用空間は季節感を出すように、ホールには職員と利用者で作った七夕飾りを飾るなど工夫している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 食事テーブル席などはトラブルがないよう定着しています。がソファでは人の声が届く場所で安心されて昼間休息されたりして、過ごされる方もおられますし、部屋を施錠して過ごす方もおられます。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れた家具の持ち込みなども進めていますが、現実的には既存の箆笥やベットを使っておられます。居室で畳使用者もおられます。</p> <p>(外部評価) 備付のタンスとベッドがあり、お気に入りの家族写真や使い慣れた小物などを自由に持ち込んで、一人ひとり個性のある居心地の良い居室になっている。毎日、布団やマットが干されて、ベッドを動かして隅々まで掃除されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 苑周辺の道路は自然に囲まれ、道路もアスファルトやジャリ道・坂道・階段があり散歩時には時として安全への配慮も必要ですが、ストロングなできないと思っていたことが熟せたりと発見もあります。</p>	